

突然の痒い発疹

川口市立医療センター

皮膚科 **高橋 昌五**



ある日突然、痒みとともに体のあちこちに**皮疹(膨疹)**が出てきたら、それは**蕁麻疹**かもしれません。蕁麻疹は日常的な皮膚病で、例外はありますが非常にわかりやすい特徴を持っています。その特徴は、突然出現すること、蚊に刺されたようなむくみを伴う皮疹が生じること、引っかくと引っかいたとおりに線状に赤くなること、数時間から一日程度で自然に皮疹が消えて茶色い跡を残さないことです。これらの特徴を備えた皮膚病が蕁麻疹です。蕁麻疹は即時型アレルギーといって、原因に接触してからだいたい1時間以内に皮疹が出現します。原因となるものは食べ物や薬といった直接口にするもののほか、ウイルスや細菌などの感染症、さらには日光、熱い冷たいといった温度・水など多岐にわたります。しかし、そのうち原因が特定できる蕁麻疹は3割ほどと言われています。蕁麻疹の原因を特定することは難しくても、蕁麻疹患者の体内では**マスト細胞**という血液細胞から**ヒスタミン**という化学物質が大量に放出されており、それが血管に作用して症状を起こしているということはわかっています。従って、ヒスタミンが血管と神経に作用することを防ぐ抗ヒスタミン薬が非常に有効です。蕁麻疹は自然に消えてしまう場合もありますが、症状を繰り返すことで長引くこともあります。また、中には**アナフィラキシー**という状態になり、命に関わるタイプもあります。特徴的な症状が出たらすぐに皮膚科に受診して治療を受けましょう。

「指定難病医療給付制度」をご存じですか？

原因が不明で治療方法が確立していない**指定難病**(厚生労働大臣が指定する疾病)は、現在**333**疾病あります。この指定難病で、一定の認定基準を満たしているかたに指定難病の治療に係る医療費の一部を助成する制度です。医療給付を受けるには、埼玉県から認定される必要があります。

対象者(①②の要件にどちらも該当するかた)

- ①指定難病に罹患している(疾患ごとの認定基準を満たす必要があります。申請前に主治医などにご確認ください)
- ②川口市に住民票がある

助成対象となる医療の範囲

指定難病や当該指定難病に付随して発生する傷病に関する医療など(例)健康保険を使用した「入院、外来、薬剤の支給、訪問看護」、介護保険の給付で使用了「訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導」など
※文書料など、保険適用外の費用やサービスは対象外です。

医療給付を受けるには？

1 川口市保健所に支給認定申請を行う

※難病指定医が作成した臨床調査個人票(診断書)などの申請書類が必要です。

2 埼玉県の審査を受ける

3 埼玉県から認定されると「医療受給者証」が交付される

※医療受給者証の交付まで2~3カ月程度かかります。

詳細は、埼玉県のホームページをご覧ください。

問 疾病対策課 ☎048-423-6708



農業を続けること

川口農業ブランド認定農産物生産者 **鈴木 國雄**さん

含有するリコピンに由来する鮮やかなオレンジ色が美しい白菜、オレンジスイート。一般の白菜に比べ甘く、やわらかいのが特徴だ。

市内の農業者が生産した農産物を多角的に評価・認定し、高品質であることを市内外にPRすることで川口農業全体の活性化を図る「川口農業ブランド制度」。今年9月、制度が始まって以来初の最高位認定区分である「川口農業ブランド認定農産物」に認定された4品目のうちの1つである。

「しっかりと育てて3kg以上になった物だけを認定農産物として出荷しています。やっぱり納得したものをごさんに食べてもらいたいのからね」とやわらかな笑顔で語るのは生産者の鈴木さん、その人である。

農業を営む父の姿を見て育ち、同じ道を志した。農業大を卒業後すぐに父と一緒に働くようになり、キャリアは40年を超えるという。「時代の要請に合わせて色々なものを作ってきたけれど、喜んでもらえる作物を育てるために一時も目を離せないのは一緒。大変な仕事だね」。これまでも手掛けた農作物は多種多様。そのどれも丁寧に、丹精込めて育ててきた。全ては食べる人に喜んでもらうため。

みんなが笑顔になる「くにちゃんふあ〜む」は、知る人ぞ知る市内ではめずらしいイチゴ狩りが楽しめる農園だ。開園しておよそ10年、シーズンごとに厳選された複数の品種が味わえる。「私の育てたイチゴをお客さんが楽しんでくれる。その様子を見ることは何よりも嬉しくてね。父の勧めで始めたんだけど、やってみてよかった。」

心を配るのは、作物の出来だけではない。イチゴの棚は可動式で、小さい子どもの視線に合わせる事が可能。車いすでも利用できるよう動線を確保し、バリアフリーも完備するなど、どこまでも優しい。「コロナ禍の現在は一つのハウスに一組のみで入れるように時間を区切り、感染症対策を徹底。こういった質の高いホスピタリティと幅広いニーズに対応する姿勢が評判を呼び、予約が取れない日もあるほどの盛況ぶりだ。」

昨年からは長男にイチゴ狩り農園の運営を任せ、自身は野菜の生産に注力、農園で販売もしている。「うちのオレンジスイートは断面からの酸化を防ぐため、カットしないで大きい形のまま出荷・販売しています。料理するときには葉を外側から剥いで使い、残ったら新聞紙などで包んで

保存してもらいたい。農園ではこういった野菜の取り扱い方法や低農薬の取り組みなどを直接お伝えしています」と楽しそうに語る。

「くにちゃんふあ〜む」の名前について尋ねると「ひらがなだと、やわらかい感じがして良いかな〜と思っただけ。深く考えてないよ」と答えもやわらかい。

そんな鈴木さんは最後に「今回の認定は嬉しいよ。ただ、川口の生産者は自分だけではないからね。皆で努力を続けなければいけない。私も今まで以上にブランドの信頼を守るために、認定基準以上の細部にこだわった生産を続けたいですね」と固く、自らに誓うように語った。

川口農業ブランド制度は、信念をもって生産された安全・安心な農産物を、50年後も消費者が享受し、郷土川口を誇りに思い続けられることを目指し設立された。まず先頭を行くことになった鈴木さんもまた、川口農業の未来をしっかりと見据えている。

(注)

